

旧植田家だまり

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 58

2024年12月発行

令和6年度 企画展②

開館15周年記念展示・後編

錦影絵プロジェクト2

上演までの軌跡



特別寄稿

「『バケモンの涙』の奇跡」③

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (五十二)」



展示・イベント案内

令和5年度 冬季企画展

そ・そ・ぐ、 昔のくらし

令和6年(2024) 12/7(土)～3/10(月)
令和7年(2025)

(開館時間) 9:00～17:00(入館は16:30まで) ※観覧は19時まで(貸借を除く)
休館日:火曜日(ひがしは除く)、12/28(土)～1/4(土)、2/12(水)
(入館料)一般250円、高校生・大学生120円、中学生以下無料

江戸く昭和時代までの
「そそぐ」道具に注目!

油煮し
醤油煮し
汁漉き
摺り・菓子
土瓶・鉄瓶
泡盛・茶壺
塵法瓶・ポット
水差し(水注)
etc...

企画展関連イベント

- 2/9(日)体験講座「昔の道具を使ってみよう」
・13:30～15:00 ※要申込み、定員10名、100円(資料代)
- 2/11(火・祝)展示解説の日(学芸員の立ち話)
・11:00～、2:14:00～ ※申込み不要、各30分ほど

土曜1(常設)にも
昔の道具がたくさん!

八尾市指定文化財
安中新田会所跡 旧植田家住宅

指定管理棟: 0670-61-0043
〒981-0804 大館町八尾市植田町1-1-25 Tel.012-962-6111 <http://kyo-jantoku.or.jp/>

展示・イベントのご案内

◎ 2024年 12/7(土) — 2024年 3/10(月)

企画展③「そ・そ・ぐ、昔のくらし」

旧植田家住宅にのこる「注ぐ」道具(酒器、茶器、食器ほか)に注目し一堂に集めた展示

・ 2025年 2/9(日) 13:30～15:00 体験講座「昔の道具を使ってみよう」

昔のくらしに関する道具を実際に使ってみます(火おこし、灯り、火鉢、鉄瓶、急須など予定)

※休館日はP15をご覧ください

Contents

- 4 令和6年度企画展②
開館15周年記念展示・後編
- 6 開館15周年記念展関連講演会
「はじめて学ぶ煎茶の世界」
- 7 大阪教育大学教育コラボレーション演習2024
「植松灯籠の日」に行ってきたよ♡
- 8 錦影絵プロジェクト2
上演までの軌跡
- 10 日日植田家住宅 第15日:土蔵でクラフト試作中
- 11 特別寄稿「『バケモンの涙』の奇跡」③
- 12 旧家で観月会&蓄音機とのこぎりの音遊戯会
- 13 植ちよぴ(夏のお茶会、植田家Zoo宅、防災かまどご飯、他)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (五十二)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



※「四会所だより(38)」はお休みします



展示室入口にて
バックナンバー
配架中(一部)

※『旧植田家住宅だより』の
バックナンバーはホームページ
からダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

表紙写真

唐物赤絵煎茶碗(涼炉図)

盃の様な小さな茶碗。煎茶用とみられ、表には涼炉で湯を沸す老人の図、裏には「一椀喉
吻潤 二椀破孤悶」の文字が見られる。旧植田家
所蔵の煎茶道具を一堂に展示した「開館15周年
記念展示・後編」の詳細は4・5頁を参照。



安中新田会所跡旧植田家住宅

開館15周年記念展示・後編

15th ANNIVERSARY

2024.9/7(土)～12/2(月)



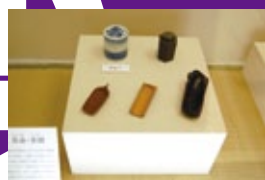
涼炉(炉台)と炉扇



煎茶道具いろいろ
・九谷焼色絵煎茶碗
・銅製茶托 ほか



茶托と盃台



茶則と茶壺



炭籠・火補、火箸



煎茶のしつらえ・掛軸



一展示品目録

令和6年度企画展②

開館15周年記念展示・後編

過去15年間の企画展示の優品を集めた開館15周年記念展示「前編」(4/27～7/28)が終了し、9月7日(土)から12月2日まで「後編」を開催しました。「後編」では、これまでの企画展では未登場の「煎茶道具」を中心に展示。江戸時代から現代まで脈々と続く旧植田家住宅には歴史や建物、日本文化が多く伝わり、約4万点に上る収藏品の中から今回は過去の調査リストをもとに、あまり馴染みのない煎茶に注目しました。

また、2011年1月、開館1周年記念として旧植田家住宅の座敷では小川流煎茶による「煎茶会」を開催。本企画展では、その当手を振り返りながら、抹茶との違いや煎茶道具を通じて旧植田家の煎茶文化について考えました。

【旧植田家と煎茶】

「茶道」といえば一般的に茶の湯(抹茶)の席を思い浮かべる人が多いかと思えます。一方、日常で喫茶する(お茶を飲む)といえは煎茶であることが多く、どちらも中国伝来の茶の文化が日本において異なる歴史や文化を背景に、独自に発展していったものであり、「煎茶道」

旧植田家にのこる煎茶道具を一堂に展示。



後手型・横手型・泡瓶の3種類の茶瓶(急須)



その他 煎茶道具



煎茶に関わる富岡鉄斎の扁額(座敷)



抹茶道具と比較

煎茶碗、煎茶碗、
煎茶碗、煎茶碗、
煎茶碗、…盃？、
煎茶碗、煎茶碗…

もまたその一つといえます。

煎茶と抹茶との違いは茶葉の形状と入れ方がそれぞれ異なり、茶道でもお点前が違います。使用する道具(茶器)には共通点がある一方で、大きさや形状、種類も様々。旧植田家住宅に伝わる煎茶道具の数々は、いわゆる茶道道具と同等に、江戸時代から続く旧家の嗜み、教養、娯楽といった文化的要素を持ったものと考えられ、記録には殆ど残っていませんが、日常においても深く浸透していたものと思われれます。

【煎茶道具の展示】

本展では煎茶道具を「涼炉」「煎茶碗」「茶托」「茶瓶」「茶壺・茶則」「建水・湯冷まし」「その他」の道具ごとに分類し、「煎茶のしつらえ」や「抹茶道具との比較」も煎茶席の写真パネルを用いて行ないました。ここで注意が必要なのはいわゆる「煎茶道具」ではないという可能性です。例えば煎茶碗は小型で一見すると盃と混同します。また茶瓶(急須)も煎茶道に用いられたものであるかどうかは現在も分かっていません。ともあれ、これも煎茶道具の奥深さと解釈し、長年収蔵庫に眠っていた道具たちはようやく日の目を見ることができました。

(学芸員 安藤亮)

滴々の煎茶の秘話



企画展「開館15周年記念展示・後編」 関連講演会

はじめて学ぶ煎茶の世界

令和6年
2024

10月19日(土)

～ 煎茶が紡ぐお話～

開館15周年記念展関連講演会
はじめて学ぶ煎茶の世界

旧植田家住宅所蔵の煎茶道具を一堂に集めた開館15周年記念展示「後編」と関連し、会期中の10月19日(土)、小川流煎茶七世家元の小川後楽氏を講師に招き、「はじめて学ぶ煎茶の世界」煎茶が紡ぐお話」と題して講演をいただきました。実は旧植田家住宅の開館1周年の際には「煎茶会」を座敷で催していただき、実に13年ぶりとなります。煎茶初心者にも分かる煎茶の基本的なお話から、奥深い歴史の話まで、興味の尽きない90分でした。

講演では、まず小川流の自己紹介か



小川流煎茶七世家元・小川後楽氏



煎茶の話に耳を傾ける参加者

ら始まり、徐々に煎茶の全体像が鮮明になっていきます。もう一つの副題にある「滴々の煎茶」とは、私たちのイメージするような、たくさんのお茶ではなく、ほんの数滴のお茶こそ煎茶の本質であることが語られました。

煎茶道については、流派によって様ざま違いがあるようですが、小川流独自の「炭降り」については「火」に対する畏敬の念がここに表れています。また煎茶器についても詳しく解説していただき、企画展の展示物がより立体的なものとなりました。

講演会の後半は、煎茶の歴史を遡り、富岡鉄斎や『草枕』(夏目漱石)にまで話が及び、煎茶と意外な人物との関係が語られました。再び小川流のルーツに話が戻ってくると、煎茶の世界が今なお歴史・文化とつながりを持ち、現代に紡がれていることを立証するエピソードによって講演が締め括られました。

(安藤亮)

「植松灯籠の日」に行ってきたよ♡

11月16日、旧植田家住宅では『植松灯籠の日』として開館時間を夜まで延長し、イベントが行われていました。

庭の10基の灯籠には火が灯され、主屋2階の窓には影絵が映し出されて普段とは違った旧家の雰囲気が楽しめました。

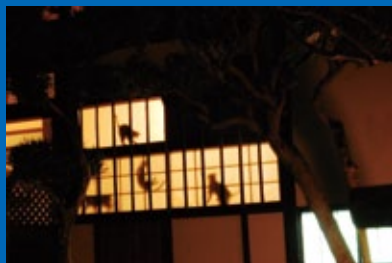


④ 植松灯籠 (常夜灯)

●主屋1階茶室の窓には猫の影絵がぼんやりと映し出されていて、とても可愛いです。



主屋の影絵 (日本の伝統文様と花札)

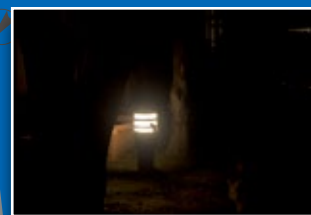
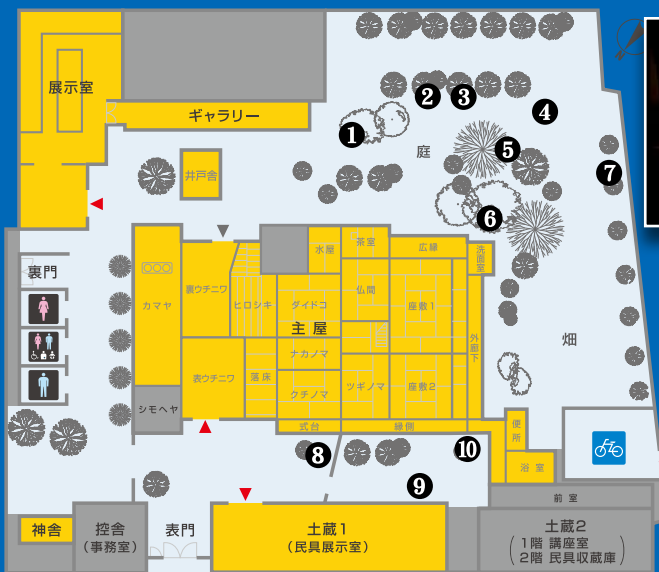


猫の影絵 (ネコカゲ)

●庭から見た影絵は幻想的で綺麗ですが裏側はこんな感じ。
↓ (笑)



日が暮れる前にせっせと段ボールを貼り付けていきました。



●あしもとを照らすライトに、猫が浮かび上がります。



野外灯 (猫)

いくつ見つけられたかな？

堤

堤 晴菜

コラボ演習はどうでしたか？

1年間のコラボ演習で、たくさんのイベントに参加させていただきました。特に印象に残っているのは「旧家で観月会」です。生まれて初めてお月見をして、とても感動しました！

井上

井上 結喜

旧植田家住宅での演習を通して身近な土地の知らなかった綿づくりや治水工事の歴史を知ることができました。



野外灯 (桜)

●当日は猫の他にも、花や花など、様々な柄の竹灯籠風野外灯(ライト)が立っていました。



⑧ 家形灯籠

2024年

旧家で芸能・伝統文化～錦影絵プロジェクト2～

にしき
錦

かげ
影絵

上
演

日本アニメの原点

11月4日(月・振休)

出演:植田家錦影絵プロジェクト*
with 錦影繪池田組

※「植田家錦影絵プロジェクト(UMLP)」は、旧植田家住宅で募集したメンバーが幻燈師となって、「錦影繪池田組」の指導のもと6～11月の約半年間で本格的な錦影絵演目の上演を目指すプロジェクト(企画)チームです。今年で2年目となります。



上演当日のリハーサルの様子(11月4日)



旧植田家住宅 座敷専用の
和紙スクリーンを新調



練習の様子(10月20日)

錦影絵プロジェクト2

上演までの軌跡

2024年11月4日(月)「文化の日」の振替休日)は、この珍しい錦影絵の上演を一目見ようと、開演時刻の午後2時には、すでに定員を超える多くの見物客が旧植田家住宅の座敷に集まった。

昨年11月18日の「錦影絵上演」では、旧植田家住宅が主催する「植松灯籠の日」のイベントの一部として夜間に行なわれ、会場は少し肌寒い土間だった。時間も会場も新たに設定された今回の上演は、二期目の幻燈師たちにとっても新鮮で、日本で錦影絵が盛んに上演されていた当時の情景を想起させるものとなった。

今回この特別な空間で上演した二つの演目「池田の猪買い」^{ししか}「桜白浪憑依豆袋」^{さくらしろなみのりまひまひ}は、昨年と同じ演目であるが、今回新メンバーが一人加わり、配役と演出が更新された。二期目の幻燈師たちは錦影繪池田組の指導を受け、およそ半年の練習期間を経て、これまで培った技術や知識を発揮し、世代間の壁や技術の差を互いに補い合い、作品の完成度を高めていった。

池田の猪買い
いけだのじじか

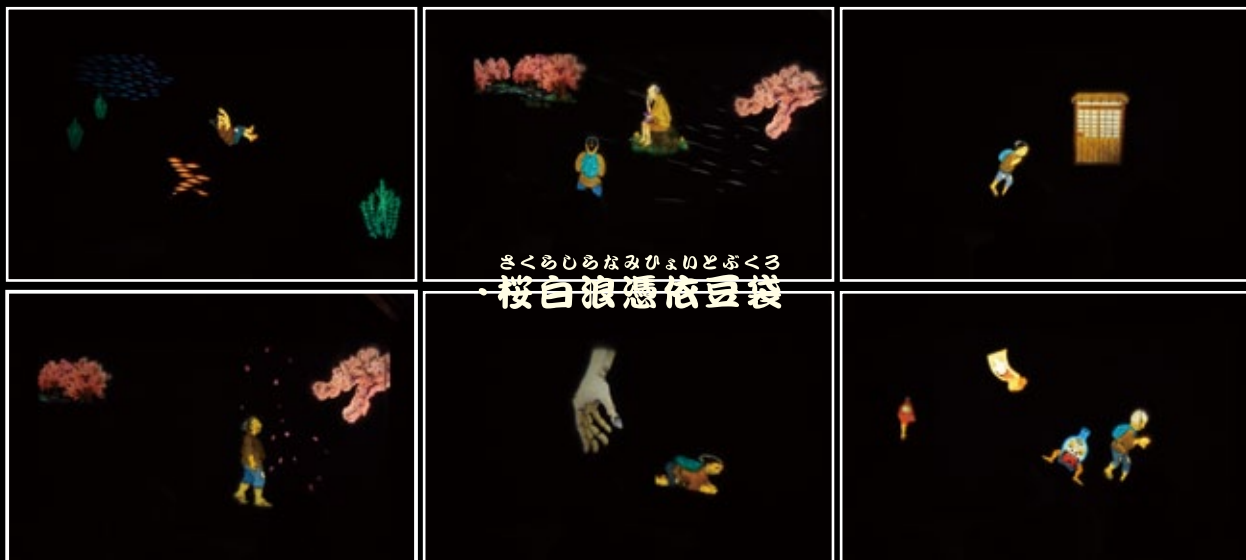


またプロジェクトの途中、1カ月近く現場を離れることになってしまった池田光恵氏の入院をきっかけに、幻燈師たちの結末はより強固となり、それぞれの自立と成長を促した。真つ昼間でありながら真つ暗な座敷で行なわれた本番は、日本独自の語り口で挨拶する「福助口上」から始まった。次いで「落語」をもとにした「池田の猪買い」は、前回よりも表現力が増し、会場を盛り上げた。

そして「桜白浪憑依豆袋」は、昨年上演した「憑いてない日」の続編にあたり、プロジェクトの幻燈師たちにとっては初演となった。終始、緊張感に包まれ気迫に満ちた舞台裏。一方で暗闇の中に浮かび上がる色鮮やかな絵がそれぞれ意思を持って動き回る「不思議な空間」が、スクリーンの向こう側（会場）にいる観客を驚かせた。

終演後、会場にはまだ多くの人たちが残り、スクリーンの裏側で幻燈師たちと和やかな交流の時を持った。来場者からは「去年よりもレベルが上がっている」「すばらしかった」「錦影絵に興味を持った」など称賛の声もあり、錦影絵の伝統・文化の灯が現代においてなお輝き続けていることを確認した。

(NPO法人HICALI)



さくら白浪憑依豆袋
・桜白浪憑依豆袋

「桜白浪憑依豆袋」は、桜の花びらが静かに降り散る中で、ある空き巣稼業の男が、次々とんでもない目に遭う不思議な話です。

雑記帳
日植田家住宅
 - 日常から日用まで -

第15日:土蔵でクラフト試作中



craft!

土蔵でクラフト

毎年夏休みの期間中、「身近な素材を使った江戸のからくり玩具」作りを2回行なっています。内容は日替わりのため、ここ数年は1回分は同じネタを使っていますが、毎年1回は新ネタを導入するようにしています。

今年度は過去に実施した「紙つぼめ」と「ずぼんぼ」をセットにした回と、今回新たに「木挽き人形」を作ってみることにしました。その制作過程をお伝えします。

【木挽き人形って?】

「木挽き人形」は、しかけの棒を前後に動かすと、「木こり」の人形がノコギリを挽く動作をする、江戸(現東京)の深川ゆかりのからくり玩具です。今回は身近な材料として、いつもの「貼りパネルの端材」と割り箸、爪楊枝などを活用しました。

【仕掛けを確認】

からくり玩具作りのネタ本やネットを参考に、まずはプロトタイプを制作。仕掛けを確かめるためデザインやサイズは超テキトー。とりあえず動作確認はOK。



動いた!(後ろのスタッフも)

【スタッフ作品集】

あとはベースを設計し、ディテールを



スタッフKの作品(可愛い獣)



スタッフ4人の作品
 「まともに木を切らない木挽き人形たち」



オリジナル風の木挽き人形

作品「魚と猫」(5秒)
 旧植田家住宅 公式YouTubeチャンネル(kyuuudeakejutaku)にて公開中



整え、自由にデザインでき、子どもでも簡単に組み立てられるようにすると一旦完成。ここから職員研修としてスタッフ全員で大人の工作がスタートします。様々な意見を聞き、最終調整を済まし8月7日(水)「土蔵でクラフト」に無事間に合いました。



イベント(8/7)の様子と参加者の作品

特別寄稿「『バケモンの涙』の奇跡③」

前々号(56号)から続いて、『バケモンの涙』(歌川たいじ著、光文社。現『いとほんのポン菓子』)にまつわる、八尾市で子ども食堂などの活動をする方から頂いた“奇跡”の物語をお届けします。いよいよ最終回。

(…57号からの続き)

約1ヵ月後、突然スマホにメッセージが届きました！橘トシ子さんの娘さんからでした。メッセージには私の手紙を受け取ったこと、その手紙を読んでトシ子さんが龍華という地名に大喜びされ懐かしんでおられたこと、また自身の母親の偉業に改めて輝きを感じ嬉しく涙が出たことが書かれていました。

私は興奮し、このご縁を終わらせたくないと、こんな提案をしたのです。

「10月8日に再び開催される「日本の食まつり」で子ども食堂がポン菓子を子どもたちに配布します。是非その様子を見ていただきたいのでオンラインで繋いでもいいですか？」と龍華の風景写真と一緒にメールしました。

「もちろんです！」とすぐの返答を受けました。

イベントの前日、北九州のトシ子さんから大きな荷物が届きました。なんとポン菓子でした！それもコーンとおかきのポンが1つずつ小分けされ、子どもたちに食べてほしいとわざわざ準備して送って下さったのです。また嬉しいことに、手作りの消しゴムハンコで「子ども食堂」の文字と「子どもに絵本を読んでいる姿」のラベルまで貼ってありました。こんな心のこもった贈り物、きちんと子どもたちに手渡さないと。また喜ぶ子どもたちの様子を届けたいと強く思いました。

当日、北九州とオンラインで結び、イベントの様子を見てもらいました。御年97歳のトシ子さん、ニコニコしながら「いっぱいねっ！」と喜んでくださいました。その隣で一緒に娘さんも画面越しに「ありがとうございます」と、お声掛けされました。

後日、子どもたちが美味しそうにポン菓子を食べている様子やトシさんと縁の深い植松・龍華地域の今昔風景などの写真をアルバムにしてプレゼントする事にしました。待ち合わせ当日、娘さんと一緒に九州の駅でお会いし、30分ほど八尾のお話、そしてトシさんの本から繋がったご縁などお礼を伝えました。

トシさんはアルバムを観ながら「ここにはよく行った」とか「可愛いねえ」など笑顔を浮かべながら昔を懐かしまれている様子でした。距離や時間を超えたご縁がつながり、とても嬉しい出来事でした。(完)



イベント前日に届いたポン菓子



手作りの消しゴムハンコで「子ども食堂」の文字



「子どもに絵本を読んでいる姿」のラベル

旧家で観月会 & 蓄音機と音遊戯会 のこぎりの

今回は都合により「四会所だより(38)」の記事を延期し、9月に行なった「旧家で観月会(夜間開館)」の様子を、同じ紙面を使ってお伝えします。

「中秋の名月」は旧暦8月15日の夜の月のことをいい、「十五夜」の日付は毎年変わります。2024年は9月17日が十五夜となり、旧植田家住宅では少し早い9月15日(日)の夜(偶然15日の夜)に観月会を行いました。

観月(お月見)は元々、平安時代に中国から伝わった文化で、庶民に広がるようになると、収穫物を供えて秋の実りに感謝をする行事になったといわれています。中秋の名月を鑑賞し、供え物の芋類に似せた「月見団子」も楽しみのひとつです。

さて、旧植田家住宅の夜間イベントとして毎年行なっている「旧家で観月会」では、普段観られない夜の建物見学と「月」が描か

れた掛軸の展示、月見団子(予約制)がセットになっています。また雅楽やコンサートなどのちよつとした企画も用意し、お月見の雰囲気を感じ上げます。

今回は「蓄音機とのこぎりの音遊戯会」という一風変わったテーマで、旧植田家所蔵の大正時代の蓄音機と、平成28年度八尾市文化新人賞のミュージカル・ソウ(のこぎり音楽)奏者Andreさんとのスペシャルコラボ企画を実施。同じくのこぎり演奏者の中ついんさんも加わり、世にも奇妙なトリオが誕生しました。

夕刻、雲に隠れていたお月様も、イベントが終わる20時30分頃にはすっかり顔を出し、月明かりの下、参加者は帰路につきました。厳密には2日早い中秋の名月でしたが、今年もまた同じ場所で大くさんの人々と同じ時間を共有し、同じ月を愛でる体験ができました。

(NPO法人HICALI 安藤亮



雲間のお月様(写真上)

“月の掛軸”展示(同下)

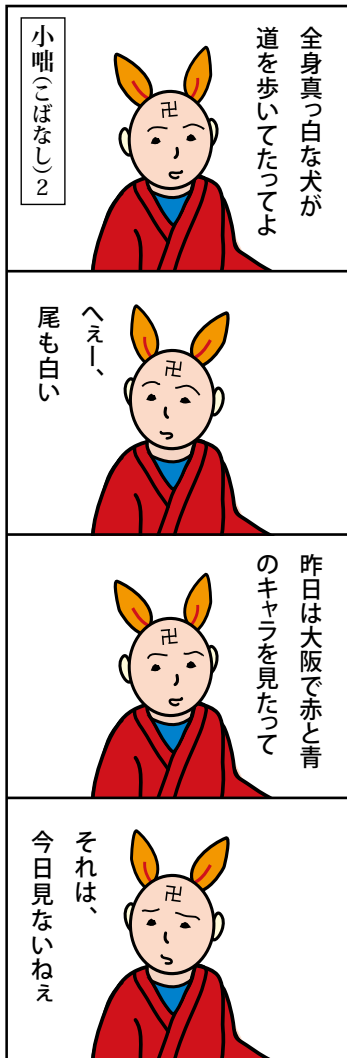
Andre(中央)、中ついん(左)
&蓄音機の奇妙なトリオ

月見団子と芒と月(写真上)

お月見団子(同下)

マンジークン

安富士 暁



「植田家住宅の・ちよっとした・トピックス」

植ちよぴ。(ックス)

①「夏のお茶会」涼やかに

2024年8月4日(日)

夏の古民家で涼を体感する納涼企画「冷やし旧家はじめました」期間中の8月4日(日)、今年も地元八尾高校茶道部の協力で「夏のお茶会」を開催。夏真っ只中にあり、ほどよく冷房の効いた座敷に客人を迎え、4名の部員らが精一杯お点前を披露し、茶とお菓子を出した。一方、準備を行なう部屋には冷房がなく、猛暑の室内を幾度も涼風が行き交った。



「夏のお茶会」座敷の様子

②「旧植田家Zoo宅2024」続々

2024年8月1日(木)～9月2日(月)

夏休みの特別企画として2021年から始めた「旧植田家Zoo宅」。建物に潜む動物(パネル)の種類も毎年増え、当初40種ほどだったのが今年は70種以上にも及んだ。追加された動物は「柴犬(クロシバ)」「イシガメ」「クロウサギ」「マヌルネコ」「スナドリネコ」「オコジョ」の6種類。



約70種の動物が大集合

それぞれ主屋の適所に配置され、これらを含む全ての動物を見つけようと、来館した親子連れ等が建物の中を隅々まで探索していた。また見つけた(見つからなくても)動物は缶バッジ(100円)にすることもでき、お気に入りの動物を選んでお土産として連れて帰ることがができる。

③「防災!かまどでご飯炊き」に夢中

2024年9月22日(日)

9月1日の「防災の日」に因み、本事業では有事に備えたかまどでのご飯炊き、消防署の立会いによる避難訓練や消火訓練、施設の防火管理者による「防災グッズ」紹介などを実施。今回は台風10号接近のため、予定より3週間後の実施となった。



防災食も試食



炊飯中のかまど

非常ベルの音を合図に、まずは避難訓練を開始。その後は参加者全員で消火訓練を行なった。

いよいよご飯炊きを始めると、炊けるまでの約30分間で防災に役立つ話とグッズ紹介があった。熱心に話を聞いていると、あつという間にご飯が炊け、最後は防災食と一緒に試食をした。

④「航空写真にみる八尾」ミニ展示

2024年10月2日(水)～12月2日(月)

昭和～平成の旧植田家住宅周辺の航空写真をパネルにし、今回は旧大和川に焦点を当てたミニ展示をギャラリーで行なった。なお展示は来年も実施する予定。



ギャラリー展示の様子

落穂拾い

― 今東光の董風 ― (五十二)

文・伊東健

一八九四年生まれの松下幸之助は、二〇二四年に生誕百三十年を迎えました。「経営の神様」と呼ばれ、自身で創業した会社を一代で世界企業に育てた手腕には、今東光もほればれとしていたようです。

ふたりの出会いは大阪テレビ放送（略称：OTV）の番組対談でしたが、面白いことに、昭和三十四年四月二十五日の松下電器産業の給与袋に封入されたリーフレットに、その対談の写真が掲載され、従業員に向けて配布されていました。当時、松下幸之助は毎月の給与袋に自身が書いた「全従業員に」というメッセージを入れ込んでいたのです。そのことを東光は、承知していたのか、次のようなことを書き残しています。

僕は松下さんにお会いしていると、この人が日本一の金持ちだという意識よりも、二万五千人の社員に生活を与えているという事実被打たれる。事業家の偉さは金を

儲けることよりも実は多くの人間の生活を保証する点にある。この二万五千人が三人家族を養つとすれば七万五千人の生命が松下さんの腕にかかっているという訳だ。

僕も小さな新聞社の社長をしてみても如何に社員の生活を保証し、且つ向上させることが難しいかということ※引用を前身に沁みて感じた。松下さんの工場ぐらい美しいものはない。何所の工場も近代産業の代表的な工場として恥しくない。あの美しく整備された工場から松下さんの性格をみとることが出来るのではあるまいか。

〔今東光連載対談みずく問答第三十三回松下幸之助〕
〔昭和三十五（一九六〇）年「財界」二月一日発行号
所収 株式会社財界研究所発行〕

二人は画一的教育からは「脱線的」だといつて意気投合しますが、労働組合に対する見解では意見が割れます。組合には絶対反対だと主張する東光に対して、松下幸之助は次のように返します。

それは行き過ぎてまんねん。組合は特に行き過ぎたらいかんけどね、行き過ぎない限りにおいては、組合があってもええ、（中略）

真面目に会社のことを考えてくれる労働組合であれば、ある方がかえってよろしいのや。（引用：「前掲書」）

茶道にも造詣の深かった松下幸之助は、東光が中尊寺貫主になると、昭和四十二年に茶室の寄贈を申し出ています。

東光はその時の感激を次の文章に書き残しています。

〔前略〕京都南禅寺のほとり、松下さんの別邸で中尊寺に茶席を贈呈すると言はれ、僕は吾が耳を疑った。東奥の素封家にも茶室があるのを知つてゐるが、歴史に残るやうな茶席を見たことがない僕は、松下さんによつて初めて東北六縣に誇る名席が残るのではないかと嬉しかったのだ。（後略）

〔松下真々庵茶室集録所収松寿庵の記 昭和五十一年七月十四日 淡交社発行 旧字体は引用ママ〕

「ボクは、学校を満足に出なかつたけれども、人間は、何でも愉快にとつことが尊いですな」と語る松下幸之助に、我が意を得たりと反応していた東光。四歳年長の幸之助は兄のような存在だったのかもしれない。

旧植田家住宅のご案内

2025年
1月～4月

これからの展示・イベント

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」
// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

展示

2025年

◎ ～3月10日(月)

企画展③「そ・そ・ぐ、昔の暮らし」

★2/11(祝・火) 展示解説の日(学芸員の立ち話)

◎ 3月15日(土)～4月21日(月)

通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品」

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



イベント

(詳しくはお問い合わせください)

1月 19日(日) こどものためのお茶会 10:00～

25日(土) うえまつ劇場～旧家で人形劇・紙芝居～ 14:00～

★1/5(日)～19(日) 旧家で記念撮影～新年・成人の日～

★1/6(月)～31(金) 「ギャラリー展示2024」

★1/11(土)～3/10(月) 冬企画「旧家で暖家(あったか)支援」

2月 16日(日) 旧家で芸能伝統文化～落語の会～ 13:30～

★2/23(祝・日)～3/24(月) 旧家で記念撮影～ひな祭り～

3月 2日(日) 石臼珈琲体験 13:00～

8日(土) 地域講座「八尾の文化財情報・状況、活用(仮)」

15日(土) 旧大和川をあるく～ぶらり吉田川編～

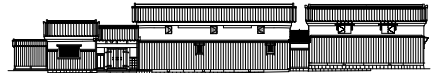
4月 未定

※予定は変更する場合があります。



休館日カレンダー

■ = 休館日



2025/ 1 January

日	月	火	水	木	金	土
			■	■	■	■
5	6	■				
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2 February

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

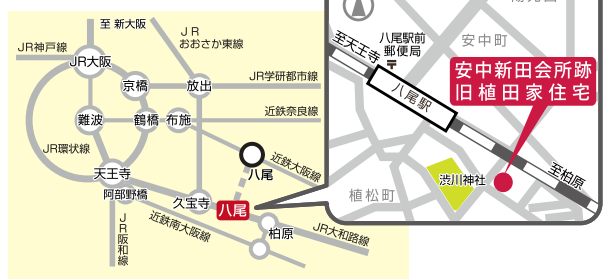
3 March

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

4 April

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

【交通案内】



◇ JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇ 近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行

JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

※当施設には駐車場はありません。車でのご来館はご遠慮ください。

●開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日：火曜日・祝日の翌日・年末年始
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料：一般250円(団体20人以上で120円)
高校・大学生120円(団体60円)

※中学生以下、身体障害者手帳等の所持者および介助者は無料

●お問い合わせ(見学の相談、講座室の予約なども受付)

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX: 072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

#編集日記(12・23)

一昨日は毎年恒例の「おもにつきの会」が終わり、たくさんの方々に参加、協力をいただきました。▼旧植田家住宅の開館15周年にあたり、これまで行なってきた展示や行事を思い出しながら、過去の「植田家だより」を読み返してみました。良くも悪くも変わらずに変わったことを続けているなあと、いろいろな人たちに助けられていることを感じます。▼おもにつきも一人では絶対に出来ません。餅つき機の登場までは。

本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、
地域経済を活性化させたいと思っています。

